

2.2 SSH国語

(1) 研究開発の概要

昨年度までに1年生普通科全員を対象に、論理的文章を読解し、要約する方法、論文の書き方について理解させるためのカリキュラムを作り上げている。今年度は、昨年度実施したSSH国語のカリキュラムを踏襲しつつ、様々な言語活動を通じて更に成果の上がるような授業展開を工夫した。

(2) ねらい

- ア 科学的な内容を中心とした論理的文章を読解し、要約する力を養成する。
- イ 論理的文章の書き方についての知識を習得し、自分の意見をまとめる力を養成する。
- ウ 他者の書いた作品を読み、相互評価することで視野を広げる。

(3) 研究の方法と内容

ア 対象生徒 1年普通科全員 320名（男子183名、女子137名）

イ 日程・内容

学期	時間	内 容
一 学 期	1	1 『羅生門』と『今昔物語集』の読み比べ
	2	上記の文章を読み比べ、作者がどのような意図をもって改作したかをグループ活動を通じて探る。
	3	分析内容の発表・自己評価・相互評価
	4	2 原稿用紙の使い方
	5	3 テーマ型小論文を書く 「私の東西論～山崎正和『水の東西』をモデルとして東洋と西洋の間で文化的な差異が感じられる例を一つあげ800字以内で書きなさい。」
	6	相互評価・自己評価
二 学 期	7	4 要約と文章構成の把握——『天声人語』より(200字・100字・50字・25字)
	8	5 問題解決型小論文を書く
	9	「現代の日本人の食生活についてあなたが考えることを、問題を解決していく形式で800字以内で書きなさい。」
	10	相互評価・自己評価
三 学 期	11	6 「TPPの是非について」
	12	資料を参考にしてあなたの意見を800字以内で述べなさい。
	13	相互評価・自己評価

ウ 実施場所 各教室

(4) 検証（結果と反省）

ア 事後アンケートの結果から

論文を書き、相互評価・自己評価をした時に実施したアンケート結果

(ア) 『羅生門』と『今昔物語集』の読み比べ（抽出回答数160 一部無回答有）

- a 積極的に自分の意見を表したか。
 - ① はい 44.5% ② どちらともいえない 38.1% ③ いいえ 17.4%
- b 建設的にグループの意見をまとめようとしたか。
 - ① はい 29.0% ② どちらともいえない 48.4% ③ いいえ 22.6%
- c 他の意見を参考にしようとしたか。
 - ① はい 52.9% ② どちらともいえない 39.4% ③ いいえ 7.7%
- d 効果的な表現ができたか。
 - ① はい 30.5% ② どちらともいえない 41.6% ③ いいえ 27.9%

(イ) 「私の東西論」（抽出回答数160）

- a 「対比の論理について」この授業を通して理解が深まりましたか。
 - ① はい 97.2% ② いいえ 2.8%
- b 「対比の論理について」使えるようになりましたか。
 - ① はい 85.0% ② いいえ 15.0%

(ウ)「現代の日本人の食生活について考えること」(抽出回答数160 一部無回答有)

a この授業を通して理解が深まりましたか。

① はい 88.3% ② どちらともいえない 1.3% ③ いいえ 9.5%

b 読み手を納得させる作品は書けましたか。

① はい 26.0% ② どちらともいえない 26.8% ③ いいえ 47.2%

*「TPPの是非について」の相互評価、自己評価アンケートは3月に実施予定。

イ 生徒の感想から

論文を書き、相互評価・自己評価をした時に書いた感想

(7)『羅生門』と『今昔物語集』の読み比べ

- ・羅生門を読んで人の「生死」、「善悪」など、対極的な気持ちがたくさん入っていると感じた。原作と読み比べたことで、作者の伝えたかったことがよりいっそう強く表されていると分かりました。
- ・発表に関してはグループ内においてはきちんと述べることができましたが、いざ人前に立って話すとなるとうまく意見を述べるできませんでした。その点がとても悔しいです。
- ・いろいろな人の意見を比べるのはおもしろかった。家で調べてきた人もいて、自分も積極的に取り組まなければいけないと思った。こういう授業は将来役立ちそう。
- ・他のグループの意見を聞いて、自分が気にもとめなかった部分の見解がいくつも出て、違う視点から見ることを学んだ気がしました。

(4)「私の東西論」

- ・論理的に説明することの難しさを学ぶことが出来た。思っていることをしっかり相手に伝えられるように練習していきたい。
- ・ひとつのものについて対比の軸を明確にするということは思った以上に難しいことでした。知らないうちに話題や主張がずれていってしまうのを直しながら文章を作っていくのは大変でした。
- ・東西の差ということについて。色々な視点から見るのがとてもおもしろかった。他の人の文章を読んで、自分の考えを深めることができ良かったと思う。
- ・あまり友達の文章を読むことがなかったので、表現の仕方を学ぶいい機会だった。
- ・時間は少なかったけど、自分の考えをまとめ、文章にすることができた。これからもっと論理的な文章の書き方を学び身につけていこうと思う。

(ウ)「現代の日本人の食生活について考えること」

- ・色々な考えを持った人が多くて、とても興味深かった。
- ・自分の伝えたいことを読む人にわかるような文章で書くのはすごく難しかった。
- ・他の人の論文を読んでみて、自分との違いに気づいた。もっと結論を追求した論文を書けるようになりたいと思った。
- ・下書き、推敲がないとまとまりのある文章が書けない。伝えたいことを伝えるのは難しいと実感した。
- ・あらためて日本人の食生活について見直すことが出来て良かった。

ウ 今後の実施に向けて

(7) 昨年度までよりも文章の記述だけでなく、グループ討論や発表、論文の回し読みなど様々な言語活動を取り入れて行った。特にグループ討論や発表では生徒が主体的に活動しており有意義であったので、今後もこういった機会を増やすことをしてもよいのではないかと思われる。

(4) 『羅生門』と『今昔物語集』の読み比べでは単に自分一人に読解に留まらず、他の者との意見の違いを聞くことでより文章の読み取りが深まることを多くの生徒が実感したようであった。

(ウ) 1回目(「私の東西論」)では論理的に記述することに不慣れな面があったが見受けられた。しかし、2回目(「食生活について…」)になると説得力が増してきた。現代文の授業で評論文と多く読み、内容だけでなく論理構成などについてことに着目させてきたことが功を奏したと思われる。現代文の授業との連携は欠かせない。

(イ) 昨年度同様、相互評価の形式が視野を広げる上で役に立つものだった。できるだけ多くの考え方、立場が違う人と触れることは有効であった。